

神はわたしたちを  
キリストと共に生かし

エフェソ 2 : 4 - 10



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015 年 3 月 15 日

大齋節第 4 主日

奈良基督教会にて

この前の主日礼拝以降、この礼拝堂では2回大きな礼拝があつて、いずれも 100 名以上の参加がありました。それというのは親愛幼稚園の卒園式と終園式で、子どもたちとともに保護者が多数参加されました。

卒園式では、わたしは園長としてお祈りをし、卒園証書を手渡し、お話をしなければなりません。お話の準備が十分できていないのを気にしながら式が始まろうとします。

事前にはこう言っておいたのです。

「3 年前にイエスさまが手を広げて、子どもたちをここに迎えてくださった。この幼稚園で子どもたちを育ててくださったイエスさまは、今日、もう一度子どもたちをそばに招いて（それが礼拝堂の十字架です）、子どもたちを励まして、祝福して、新しい世界に送り出してくださいませ。」

卒園する 43 名の子どもたちが、左側前方の渡り廊下から入って窓際を通り、パイプオルガンのところから中央をひとりひとり前へと進み、十字架を仰いで一礼して着席します。

それを見ているだけで、涙が出ます。この子どもたちは神さまの愛しておられる子どもたちだ、と感じるからです。

卒園式が終わって次の日、ある男の子が近寄ってきて言いました。

「園長先生、お礼拝ありがとう」

この子は礼拝が好きなのです。

キリスト教幼稚園がここに存在している意味がある。そう確信します。

皆さまにお願いしたいのは、親愛幼稚園の働きを大切に思っ  
ていただいて祈ってほしい、ということです。子どもたちのた  
め、その家族のために祈ってほしい。また教職員のために祈っ  
てほしい。そして幼稚園の運営のため、安定のためにも祈っ  
てほしいと願います。

さて今日耳を傾けたいのは、本日の使徒書、エフェソの信徒  
への手紙第2章の言葉です。冒頭、

**「しかし、憐れみ豊かな神は」**（エフェソ 2:4）

と始まりました。

この「しかし」の前には、人間の悲慘が語られています。

**「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいた」**

2:1

この世にはたくさん悲しみがあり、悩みがある。苦しい訴  
えを聞きます。また社会的地位も責任もある人たちが、保身の  
ために、信じがたい偽りを述べることがあります。

**「罪のために死んでいた」**

たとえ人前では元気に振る舞っていても、自分の罪によって  
魂が死に瀕していることがあり、また人の罪、社会の悪によっ  
て死に追いやられる人がいる。自分の魂のことから世界の矛盾  
に至るまで、どうしてよいかわからないものがきがあります。

このような中にいるわたしたちに対して、わたしたち自身の中からは生まれてこない別の響きが聖書から聞こえてきます。それを今、聞きましょう。

**「しかし、憐れみ豊かな神は」(エフェソ 2:4)**

**「しかし、神は」**

ここに人間と世界の悲惨とはまったく別のものがある、しかし人間と世界の悲惨を引き受けつつ語りかける声があります。

わたしたちは今日の礼拝の初めのほうで、「**キリエ・エレイソン**」と歌いました。それは「主よ、憐れみをお与えください」という意味のギリシア語で、主イエスを呼び求めた人々の嘆きと訴えが凝縮している言葉です。福音書の中の、目が見えず道端で物乞いするしかなかった人。重い病の子どものために必死でイエスにすがった母親、父親。

わたしたちが「キリエ・エレイソン」と祈り、歌うとき、主の憐れみを求める世界の嘆きとつながっているのです。

ふと気づかされます。わたしたちの祈り求めは無視されているのではない。神はわたしたちが求める憐れみをもって、わたしたちに近づいてこられています。

**「しかし、憐れみ豊かな神は」エフェソ 2:4**

憐れみを切望する人々に対して、神が憐れみを持って立たれます。神がわたしたちを愛される愛は、イエス・キリストのうちにうずいて、脈打って、燃え上がります。

「しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛して  
くださり、」 2:4

「この上ない愛」は、どこで示されたのでしょうか。それは、  
イエス・キリストが弟子たちと共に囲まれた最後の食卓におい  
て示されました。

ヨハネ福音書にこう記されています。

「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父の  
もとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを  
愛して、この上なく愛し抜かれた。」ヨハネ 13:1

そのときイエスは食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手  
ぬぐいを取って腰にまとい、たらいに水を汲んで弟子たちの足  
を洗われました。

イエスの愛の手が弟子たちの足に触れました。イエスのこの  
上ない優しさと断乎たる決意に、弟子たちは直接肌で触れたの  
です。

イエスが清められたのは弟子たちの体のもっとも汚れた汚い  
部分、足でした。そのとき弟子たちは気づかなかったかもしれ  
ません。しかしイエスはこのとき、弟子たちの弱さと罪を引き  
受けておられました。弟子たちの足を洗われたときイエスは、  
この弟子たちを絶対に見捨てない、自分のいのちに代えても彼  
らを絶対に死と滅びに引き渡さないと、決意しておられました。

弟子たちの愛と信仰が挫折したときに、イエスの愛は終わるものではありません。弟子たちが裏切ったとき、イエスは弟子たちを見放さない。そのときかえって神の憐れみはイエスのうちに高鳴って、そして十字架において極限に達するのです。

「しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——」2:4-5

神の「この上ない愛」はわたしたちの行くところまで行きます。わたしたちが罪で死んで滅びるなら、神の愛はわたしたちの死と滅びまで一緒に行く。それがイエス・キリストの十字架です。

そして神の愛は「わたしたちをキリストと共に生かし」ます。

神はわたしたちを、悲惨と罪と滅びにおいて捕まえてくださる。それがキリストの十字架です。神はわたしたちをキリストの十字架において捕まえて、捕まえたまま、キリストと共に生かしてくださいます。キリストの復活はわたしたちを新しいのちに生かします。

わたしたちは時々「神と共に歩む」と言います。しかしわたしたちが神と共に歩めなくなったその地点において、神がそのわたしたちと共にいようとされます。キリストは死んでわたし

たちと共におられ、キリストはよみがえってわたしたちと共におられ、わたしたちをご自分と共に生かしてください。

この事実に触れるなら、わたしたちの高慢と愚かな誇りはやみます。わたしたちはもはや自分を目立たせたり誇ったりすることは必要ではなく、神を畏れ神を愛するわたしが生まれ、成長して行きます。

**「あなたがたの救われたのは恵みによるのです—」**

主イエス・キリスト、どうかわたしたちの高慢と誇りを終わらせてください。あなたの手が弟子たちの足を洗われたように、あなたの手がわたしたち足に触れて、わたしたちを洗い清めてください。主がわたしたちと共におられ、主と共にわたしたちを生かしてください。あなたの愛のうちにわたしたちを生かして歩ませてくださいますように。アーメン